

## prologue ... プロローグ

1996年、障害のある人の支援者の研修会として、故山川宗計氏（2006年10月没）と關宏之氏の呼びかけにより、“Colleague’01”（コリーグゼロワン）と称した会が発足しました。“colleague”とは、『仲間・気脈が通じている人・志を同じくする人』という意味です。“’01”は、1996年にスタートしましたが、2001年頃には陳腐化しているだろうから解散すべし！と名付けた仲間内の会でした。

“Colleague’01”では、先進的な福祉実践者を招き、そこに参加された人たちが熱く議論を交わす会で、当時の全国の先進的な実践を知ると同時に、会に参加した人々が最も求めていたことは『福祉の価値』の共有でした。リーダー達は独自の『哲学』を持ち、我が国の福祉制度において『措置』から『契約』への時代を担った実践者であり、そこに集まった人々も、“Colleague”を基点として、次の時代を確実に導く役割を果たしました。2001年で“Colleague’01”は幕を閉じますが、2003年の支援費制度導入後、2006年には『ノーマライゼーション』の理念を柱とした障害者自立支援法が施行され、障害のある人たちの環境は大きく変化し、就労をはじめ、福祉制度全体が底上げされました。

## “Colleague”を再開します！

このように国の施策の変更により、障害のある人のはたらくこと、くらすことは新たな一歩を踏み出すこととなりましたが、すべての障害のある人の問題が解消されたわけではありません。制度が充実したことにより、地域でさまざまな支援機関が現れ、サポート側同士の連携や相互理解ができてきているか否かは不安な状況でもあります。

また2014年1月に、我が国は障害者権利条約を批准し、140番目の締結国となりました。批准に向けて、さまざまな国内の法整備が行われましたが、障害のある人の権利の実現と人権尊重に向けた取り組みは、さらに強化されなければなりません。

その取り組みの先には『障害のある・なしに関わりなく、地域で当たり前にくらし、はたらく』という地域生活の実現に向けて、解決しなければならない課題が山積しています。“Colleague”では、こうしたさまざまな「生きにくさ」に対して『その人の“生きにくさ”をどう解消していくか！』をテーマに、支援の価値の共有を図り、社会の中の生きにくさに対応していきたいと考えています。

# COLLEAGUE

## Colleague 発起人並びに事務局体制

### 発起人

- 荒川 輝男（社福） そうそこの杜 理事長  
奥西 利江（社福） 維雅幸育会 ふっくりあ 常務理事  
角森佐岐子（社福） 大阪市手をつなぐ育成会  
港エリア総括施設長  
酒井 京子（社福） 大阪市障害者福祉・スポーツ協会  
サテライト・オフィス平野 所長  
城 貴志（特非） 滋賀県社会就労事業振興センター  
常務理事兼センター長  
白江 清（特非） ワークステージ 代表理事  
新原 淳（社福） 北九州市手をつなぐ育成会 理事  
關 宏之（社福） 日本ライトハウス 常務理事  
高井 敏子（社福） 加古川はぐるま福祉会  
理事長兼センター長  
南石 勲（社福） ワークスユニオン 所長  
野林 博文（社福） 大阪市障害者福祉・スポーツ協会  
大阪市立千里作業指導所 所長  
矢野 孝 矢野紙器（株）代表取締役社長

### 事務局

- 〔代表世話人〕  
湯川 隆司（社福） ワークスユニオン  
〔副代表世話人〕  
嶋田 彰（社福） 日本ライトハウス  
相談支援センターてくてく  
相談支援専門員  
〔事務局担当〕  
乾 伊津子（社福） 大阪市障害者福祉・スポーツ協会  
大阪市職業リハビリテーションセンター  
所長

※(特非)大阪障害者雇用支援ネットワークに事務局を置きます。

2015年4月

Colleague 代表世話人 湯川隆司

Illustration